

意見交換会報告書（委員会主催分）

団 体 名	川内川市街部右岸改修等対策連絡協議会	参加人員	15人
開 催 日 時	平成26年4月11日（金） 18:30～20:23		
開 催 場 所	中央公民館 第1研修室		
出 席 議 員	〔建設水道委員会〕 7人 福田 俊一郎（委員長）、小田原 勇次郎（副委員長）、 上野 一誠、橋口 博文、大田黒 博、持原 秀行		

意見交換の内容（凡例 ○協議会 ●議員）	
1	川内川市街部右岸改修等（都市計画道路中郷・五代線も含む）について ○ 都市計画道路中郷・五代線について、了忍寺周辺の構想が示されていない。現在、川内川の堤防が道路に接近して圧迫感を感じる。また、国道3号太平橋ガード下も離合できる場所を確保してほしい。 ● 太平橋から了忍寺までの区間の計画は、まだ見えてこないようである。 ○ 道路が広くなることで、自動車の走行速度が速くなり、交通事故の増加や大小路地区が素通りされるような状況が懸念される。 また、今回の事業が、市街地計画の中で、どのように位置付けているのか、わからない。 ○ 国道3号と都市計画道路中郷五代線等が接続する交差点では、交通規制が行われることにより影響を受ける方々も出てくる。まちづくりを進める上で、マイナス要素が出ることは困る。 また、多くの住家が川内川に向いて建っている。堤防も、コンクリートで保護することなく、地域住民の意見を聞いて、生活環境に配慮したものにしてほしい。 ○ 市街部改修に伴う立ち退きに伴い、自治会の世帯数が72世帯から54世帯に大幅減少し、自治会予算が組めない状況にあった。 本自治会内の道路は途中で行き止まりになる箇所もでき袋小路の状態となることが予想される。近道を求めて進入してきた自動車も少なくないと考えられ、子どもや高齢者への配慮も必要である。 また、川内川改修により、堤防の登り口が限られており、田原病院のところとなっているようである。すぐ堤防に上られるよう、登り口の設置も配慮してほしい。

- 試算によると、都市計画道路中郷五代線は、通行台数が約4,700台になると予想され、できるだけ信号機を設置しないという方針を説明会で聞いている。
- 都市計画道路中郷五代線には、照明を付けてもらい、明るいまちにしたい。
- 川内川には、向田側に渡唐口というのがあって、大小路側に渡瀬口というのがあった。数年前に渡唐口ができたとき、当時の川内川河川事務所長は、渡瀬口も同じように整備すると言ってくださった。歴史的な遺構を残す検討をお願いしたい。
- 都市計画道路中郷五代線には、住家側にも歩道を確保してほしい。
- 中郷五代線は都市計画道路という位置づけである。県の都市計画決定を受けて工事に着手している。都市計画の変更部分については、市の都市計画審議会の承認が得られて、県で審議されている状況である。
 したがって、このような状況のもと、地域の意見が取り入れられる部分がどの程度あるのか。また、今後の道路整備の中で、どの程度取り入れられるか。今後、慎重に対応する必要がある。
- 本日の意見は、今後、当局に確認していきたい。
- 地域の意見が反映されないまま事業が進められている。したがって、歩道や信号機など細かい問題が出てくる。このようなことは、将来像を描く中で、必要なことであると思っている。それぞれ色々な計画・構想をもっている。計画や方針が決まった後、これに即して事業を進めていくとなった場合、何を言っているのか分からない。
- 地域住民と市・国が協議をした中で、事業が進んでいると思っていた。密接なやりとりがあったのではないかと。市当局に聞くと、国も地域の意向を聞く姿勢があると聞いている。本日の要望内容は、現場も分からないことから、詳しく教えてほしい。
- 昨日、可愛地区の34自治会の自治会長連絡協議会の総会があった。そこに川内川河川事務所職員が来られて、今後、河川改修に合わせて地域住民の意見を聞くための意見交換会を開催してほしいとの説明があった。したがって、堤防部分は、今から国が事業を行うことから、議論の機会があると認識してほしい。
 都市計画道路については、土地測量の調査も行われ、説明会も行われてきた。市都市計画審議会において、地域住民の声を聞き、陳述の機会も与えられ、決定がなされていることを理解してほしい。
 なお、信号機の設置は、公安・警察が関わってくる。市が直接決定できる範疇でないので持ち帰って検討させてほしいが、警察の方針では、国道3号と都市計画道路中郷五代線が接続する箇所付近に近接する交差点の撤去や交通規制を行う

方針であると聞いている。これは、短い区間に信号機を複数設置することで交通渋滞が起こり、事故の恐れがあるためではないか。今後は、地域住民に警察の考え方を説明するよう準備しなければならない。

○ 交通規制により、自動車が、幅員の狭い道路を抜け道として通過すると逆に危ない。

○ 国道3号太平橋ガード下は、救急車・消防車も通れない。周辺の道路は一方通行の箇所がある。地域の意見を尊重して進めてほしい。

安全優先で地域住民の意見が無視されることもある。地域住民が納得できるような説明会を早めにしてほしい。

● 事業の実施に当たっては、地域住民の意見を踏まえて行っていくかということが課題である。議会も地域の声を聞きながら、市当局と向かい合っていく取組みが求められている。

2 河川敷の景観等かわまちづくりについて

● かわまちづくりについては向田側でも実施。昨日、可愛地区の34自治会の自治会長連絡協議会でも、今回、大小路側も地域の意見を広く意見を聞きたいと、川内川河川事務所職員から説明があった。

○ 地域の意見を聞くだけで終わりである。市議会の後押しがほしいため、説明会に議員も参加してほしい。

○ 河川改修と道路整備の縦割りの中で事業が進み、地域の意見を述べても、縦割りの中で受入れられないこともある。地域の意見が反映されるような事業であってほしい。

● 地域の声を反映させるよう要望書を、関係機関に提出したことはあるのか。

○ 提出している。

● 市都市計画審議会でも地域からの意見・要望書は公開されている。

○ 国に対して、河川敷地内に何か整備してほしいと要望しても、地域が管理しなければ整備しない。例えば、少年野球が使うグラウンドなど、地域が要望しても、管理まで言われると、なかなか前に進まない。

● 洪水に耐えられるよう、流域を拡張したため、河川敷にグラウンドをつくる広さを確保できるのか、厳しいと考えられる。

○ 川内川の上流では、NPO法人を設立して管理しているところもある。また、河川敷を酪農農家に貸して、管理をしている事例もある。

○ 市も国も説明会を開いて、地域の意見を聞くようになってきた。今は、全員で取組む時代になっている。

○ 子どもや女性の意見を取り入れたい。可愛・亀山・育英小、川内北中を回って、川内川の夢を、イラストや感想文として出してもらった。いい流れができ

たらしいと思う。

そこで、今は自動車が通過するだけの太平橋を本市のシンボリックなものにできないだろうか。

3 改修に伴う川北地区のまちづくりについて

- 高速船甕島は水戸岡デザイン。自由なデザインができています。このような手法を橋周辺のデザインに活用できないか。
- 国道3号の電柱の地中化が進んでいる。上川内町の高槻橋まで継続事業として進めてほしい。
- 川内北中校区のまちづくり懇話会では、大雨による出水が多いとの意見が多くあった。
- 今回、本市の内水対策に係る中長期ビジョンが策定された。財源の問題があるが川北地区でも整備計画が作られている。
- 中長期ビジョンの話は以前もあった。
- 内水対策については一般質問でも取り上げられた。市整体的の問題であり抜本的な対策が必要であると考えられる。
- 今後、該当地域への説明があるのではないか。